

岩手 報 手 字 真

縣沿岸部篇



三陸沿岸のトロール漁業 (気仙郡大船渡湾)

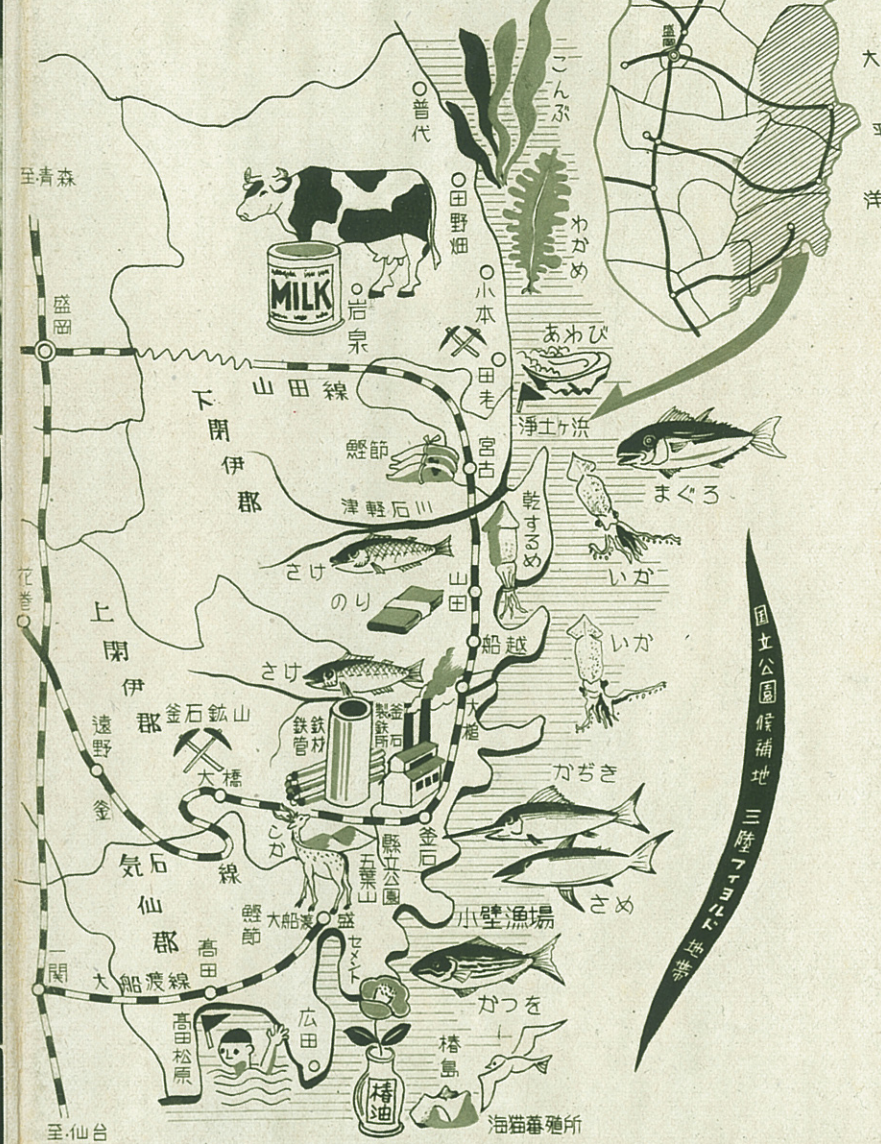


浜の婦人は美しい じいつと沖をみつめ何か待つ姿はまことに印象的である (深沢紅子画伯)

浄土が浜 (宮古市からバスで20分)

「徳富健次郎著『寄生木』第十一章から」
 東都神田で下宿を共にした友人が帰省した。一室に
 窓居してもつたらぬ ちと太平洋の潮風に当つて浩
 然の氣を養つて来ようと共に浄土の浜に遊んだ。巖
 は白く松はみどり大洋の浪は砕けて飛沫さながら
 雨のよう 良平は友人と足を潮水に浸したり岩角に
 踞して「雲耶山那吳耶惹那」を怒鳴つたり声枯れて
 腹空しくなつてまさに帰らんとする時何処となく妙
 な物音がして来た 友人と眼を見合おしてまたつな
 みではあるまいかといさゝか掛念して居るとやがて
 岬を廻つて数艘の小舟があらわれた 客が大勢芸妓
 をのせ大鼓をうたり三味を鳴らしたりして二人が
 立つて居る浄土が浜にやつて来た 昔平家の一族が
 船を浮べて月下の宴を張つた当時も忍びれる 不図
 見ると舟の中に居る芸妓の一人は先夜の手踊に見染
 めた浪氏である 良平は立去りかねた 友も見とれ
 浪氏を寵愛して居る富者の浜遊であらう 富の力が
 ねたましい

岩手縣沿岸部物産図



ATTRACTIONS OF IWATE